



クリーンキャンペーンに取り組みました

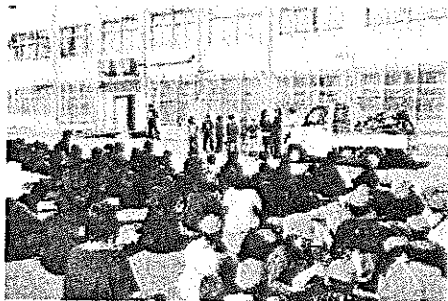


11月16日(金)に地域教育協議会と青少年健全育成会の共催でクリーンキャンペーンに取り組みました。地域の大人、城南中学校1年生、西大冠小学校、若松小学校の両4年生、春日保育所、西大冠幼稚園の子どもたちが校区の公園や川などのそうじをしました。

1時間ほどの活動でしたが、大きなゴミ袋94袋ものゴミがあつまりました。

～小学生のふり返り～

- ・中学1年生と公園のそうじをして、とても早く終わったと思いました。公園には、たばこの吸いがらやガムがありました。大きいものは傘もありました。ガムはタイルにへばりついていたので、きれいに取りました。これからは、他の公園もきれいにしていきたいです。
- ・ぼくは、公園のそうじをして、草むらにガラスがあつたので、ごみはちゃんと分別して捨ててほしいと思いました。最初に来たときよりもきれいになったので、みんなで協力したからだとわかりました。



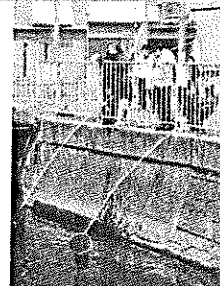
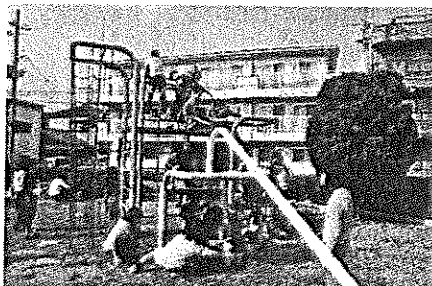
アートフルタウンプロジェクト始動

7月1日発行のJ地教協ニュース35号にも活動を紹介しましたが、今年度もアートフルタウンプロジェクトに取り組みます。どのような活動をするかは、これから人権まちづくり協会の さんがコーディネーターの実行委員会の中で決めていきます。アートフルタウンプロジェクト本番は3月9日(土)に決まりました。9日が雨天で活動が難しい場合は翌日10日(日)になります。以下にアートフルタウンプロジェクト実行委員会の日程を載せますので、全てでなく、来られる時だけでもかまいませんので、地域の方にも参加して頂けたらと思います。よろしくお願いします。

アートフルタウンプロジェクト実行委員会

場所：春日ふれあい文化センター

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ①1月15日(火) 17:30～18:30 | ②1月29日(火) 17:30～18:30 |
| ③2月 7日(木) 17:30～18:30 | ④2月14日(木) 17:30～18:30 |
| ⑤2月22日(金) 17:30～18:30 | ⑥3月 1日(金) 17:30～18:30 |
| ⑦3月 7日(木) 17:30～18:30 | |



昨年度のアートフルタウンプロジェクトのようすです



各地の学校を訪ね、子どもたちの元気な笑顔に会いに行きます。子どもたちは今、どんな学校生活を送っているのでしょうか。学校の特色ある取り組みを紹介しながら、学校や教育の“今”を見つめていきます。

NHK 総合(毎週 月曜～金曜 午後 6:10～)「ニューステラス関西」枠内 より

※平成 27 年 5 月現在、番組は終了しています。

4 月 23 日放送

寝屋川市立寝屋川第三中学校



寝屋川市の第三中学校は、京阪香里園駅の近くにあり、生徒数は 620 人あまり。

学校では 15 年ほど前から、近隣の一人暮らしのお年寄り(およそ 400 人)の誕生月に、中学生が数人ずつのグループで自宅を訪ね、花束をプレゼントする「フラワープレゼンター」という活動を続けています。

活動はボランティア登録した生徒を中心に行い、登録は全校生徒の 7 割近くに上っています。

活動は毎月第 3 木曜日の放課後行われます。4 月は 60 人ほどの生徒がロビーに集合、花束を持ち、4 人グループでお年寄りの家を訪ね、お年寄りに「誕生月おめでとうございます」と花を渡しおしゃべりして帰ってきます。

お年寄りの家を訪ねると素直に感謝され、喜ばれ、ほめられるので、生徒たちは誰かの役に立っていることを実感し、地域に自分たちを見守る目があることを実感できます。

また中学校では生徒会が中心になって「ハイタッチ運動」に取り組んでいます。ただの「あいさつ運動」ではなく、ハイタッチをして朝からテンションを上げて元気になろうと数年前に始めたもので、毎週水曜日と木曜日の朝に行われています。

フラワープレゼンターやハイタッチ運動の様子を取材し、ふれあいを大事にした学校作りの様子を紹介しました。

特集 「地域ぐるみで9年間の学びを支える、小・中学校合同で進める学校運営協議会」

京都市では、全中学校区において小中一貫教育を推進しており、義務教育9年間の学びと育ちの充実に向けた様々な取組を進めています。そして、その取組を推進するための視点の一つに「家庭・地域との連携・協力」を掲げています。その視点をもとに、京都市では「小中一貫教育」と「地域ぐるみの教育」を合わせ、学校・家庭・地域が一体となって、家庭教育も含めた計画的・系統的な小中一貫教育に取り組み、義務教育9年間の学びと育ちを組織的に支えていくため、中学校区単位で運営する「小中合同の学校運営協議会」の設置を推進しています。



小中合同の学校運営協議会では、中学校区としての目指す子ども像の実現や小・中学校で共通した課題の解決に向けた協議に加え、「中学校区単位での合同行事の実施」や、「小・中学校での学校評価項目の共通化」、「家庭学習の実践項目を示した『中学校区版・家庭学習の手引き』の作成」等、中学校区全体で子どもを育てていくという意識のもと、様々な取組が展開されています。

※現在は13中学校区に設置（凌風中、久世中、大原中、花背中、閑晴中、東山泉中、嵯峨中、西院中、高雄中、宕陰中、双ヶ丘中、周山中、桃陵中）

取組事例

○双ヶ丘中学校区（御室小学校、宇多野小学校、花園小学校、双ヶ丘中学校）平成26年7月30日設置

本中学校区では、4校ともに学校運営協議会が既に設置されていましたが、これまで以上に地域と一体となって、組織的に小中一貫教育を推進するため、各校の学校運営協議会の代表者が集まる形で小中合同の学校運営協議会を発足させました。

発足後、中学校区全体で取り組むべき方向性を検討し、1年次の活動として「義務教育9年間を見渡した教育活動の検証を行うための、小・中学校の学校評価項目の共通化」に取り組みました。また、地域と連携した行事として「小中合同での避難所設営訓練」も実施し、200名を超える参加者の中、中学生は避難所設営と運営を、小学生は避難者役を務め、災害に対して地域一体で取り組む意識づくりが進められたことに加え、子どもたちの自主性や地域への参画意識を高めることにつながる取組となりました。



小中合同での避難所設営訓練

○久世中学校区（大藪小学校、久世西小学校、久世中学校）平成23年4月13日設置

本中学校区では、平成23年度から小中合同の学校運営協議会を設置しており、「教職員」、「保護者」、「児童・生徒」のそれぞれの行動指針を示した「久世スタンダード」の作成や、中学校区版の「家庭学習の手引き」の作成等の取組を進めてきました。

平成26年度においては、子どもたちの学力向上に地域ぐるみで取り組む意識を高めるため、学習状況の分析を3校共同で行い、さらに学校運営協議会でも分析の結果をもとに改善策について協議しました。

また、「久世スタンダード」の改訂版（平成27年4月に3校で保護者・教職員に配布予定）を作成し、中学校区全体としての目標の焦点化と、具体的な行動に向けた意識共有をさらに進めています。



久世スタンダードVer.2（児童・生徒版）



1. 自分から元気にあいさつをしよう
2. 一生懸命 勉強に取り組もう
3. 相手を思いやり、みんなで仲良くしよう
4. 学校のきまりを守ろう
5. 久世の地域を大切にしよう



久世スタンダード
（保護者版）
久世スタンダード
（学校版）

久世スタンダード・・・「児童・生徒版」、「保護者版」、「学校版」の3部構成で、中学校区として、それぞれの行動指針を示した冊子。

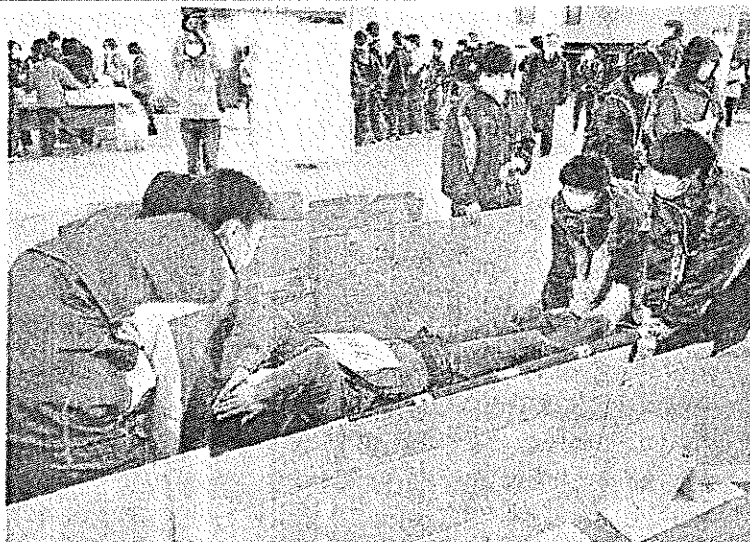
双ヶ丘中だより

(第51号)

素晴らしい避難所設営体験!

24日(土)学校運営協議会・地域の方々のご協力のもと、避難所設営体験を実施しました。参加した生徒たちの頑張りで大変すばらしい取組になりました。参加していただいた地域の方々から生徒たちのキビキビした行動にお褒めの言葉をいただきました。
(京都新聞25日朝刊より)

段ボールで仕切ったスペースに負傷者役の住民を担架で運び入れる中学生(京都市右京区・双ヶ丘中)



住民と連携 避難所設置

京の2中学校 生徒が防災体験

京都市内の中学校で24日、災害時に備えた避難所運営の体験イベントがあった。生徒や住民が体育館に避難所を設置し、地域で連携した対応の大切さを実感していた。
右京区の大ヶ丘中では約170人が参加した。生徒が体育館にブルーシートを敷き、学区ごとに居住スペースを確保。避難者役の住民や小学生に名簿に名前や住所を記入してもらい、それぞれの学区のスペースに誘導した。負傷者用の場所には、段ボールで仕切りを作り、負傷者を担架で運び入れた。

同中2年の三枝百萌

花さん(13)は「フルを取りたいと話した。シートの上では1人、中京区の西ノ京中でのスペースが小さいも防災イベントが開か」と感じた。災害はいつ起こるか分からないので、日頃から地域の人とコミュニケーションを体験した。
(中村幸恵)

※ 読売新聞25日朝刊にも掲載されました。

双ヶ丘中学校は、地域と共に生きる学校を目指します!